

播磨の古代寺院と造寺・知識集団 41

目録 播磨の古代寺院と造寺・知識集団

「連載目録」 1 ~ 40
2008.11 ~ 2016.1

寺 岡 洋

この連載は2008年11月から始め、今回は41回目になる。40輯記念として何を書いたか振り返ってみたい。書くべき課題が残っていないかを確認し、「むくげ叢書」につなげたい。

「知識」、知識の寺（知識寺）

まず、あまり馴染みない表題に使っている「知識」について簡単に。知識（智識とも）は仏教用語で、仏のために協同で行う善い行為（作善 法会・写経・造仏・造寺など）をいうもので、財貨や資材、労働力を仏のために喜捨（提供）する。

個人が仏と結縁するのが本来のあり方のようだが、時代を遡ると小集団・氏族などを掌握している個人が代表として参加するも形もあったと考えられる。単独の氏ではなく、複数の氏・個人による協同作業により、写経や造寺を行うのである。

ただ、建前通り仏に帰依するだけであったかは疑問で、協同事業による社会的・経済的・政治的な効果・効用をも併せ持つのは必然であろう。

氏の寺、氏寺（うじでら）

古代寺院の相当数は「知識による寺（知識寺）」と考えられるが、一般に古代寺院は「氏の寺（氏寺）」であったと理解されている。しかし、飛鳥～奈良時代の基本的な文献史料であり、仏教・寺院について多くの記述のある『日本書紀』・『続日本紀』（しょくにほんぎ）、また、『風土記』にも「氏の寺」は使われてなく、「氏寺」という概念が飛鳥～奈良時代に存在したかどうかは不明である。この連載は『播磨国風土記』を舞台にしてと謳っているので、「氏寺」という用語は避けている。

古代寺院と渡来系集団・氏族

古代寺院は佛教施設でもあるが、地域に新たな律令体制を可視するシンボルのような存在でもあった。駅路（えきろ）も同様の機能を持つ。

『播磨国風土記』を読むと、播磨には7～8世紀頃、渡来系氏族・集団が多く居住しており、播磨の重要な産業や郡の実務を担っていたようである。しかし、いわゆる渡来系遺物は古墳時代と比較してさほど見られない。そのような社会的状況の中で古代寺院は、渡来系氏族・集団の存在をうかがう遺跡・モノとして評価できるであろう。渡来系寺院と評価される要素が播磨でも少なからずみられる。

第1回「通信」231 2008年11月

『出雲国風土記』と古代寺院

『出雲国風土記』は天平五年（733）に作成され、寺院についての記述がある。教昊寺（きょうこうじ）と10ヶ所の「新造院」が記される。「風土記」には僧尼が10人しか記載されず、そのうち8人は大原郡の「新造院」におり、尼寺もあった。大原郡の郡司は渡来系の人物。

寺院の建立者は郡領（ぐんりょう）層（郡司と郡司候補者）が過半を占めるが、「知識」によるものもみられる。

出雲国は9郡で構成され、意宇郡（11郷）4ヶ寺、大原郡（8郷）3ヶ寺と2郡に7ヶ寺が集中する。

『播磨国風土記』には残念なことに寺院が登場しない。編纂者と推測される播磨国司・樂浪河内（さざなみのかわち）の父親は亡命百済人で、「沙門（しゃもん）詠」と呼ばれた僧であり、河内も仏教に精通していただろうに。

第2回「通信」232 2009年1月

『日本靈異記』にみる造寺・知識集団・僧

『靈異記』は仏教説話集。取り扱われる年代は仏教伝来から平安時代前半まで。説話には生々しい描写もあって読物としても面白く、古代の民衆と仏教の情況を窺える。当時呼ばれていた「寺名」が分かるのも貴重。

京（藤原京）の元興寺（がんごうじ）の僧が夏安居（げあんご 夏の修行）のため、「播磨餅磨郡の濃於（ののお）寺」で過ごしている。藤原京の元興寺とは、飛鳥寺のことであり、大和と播磨がつながっている。

第3回「通信」233 2009年3月

智識寺（ちしきじ）・河内六寺と知識集団

■智識寺（大阪府柏原市）

天平12年（740）、聖武天皇が難波宮行幸の途次に参拝し、盧舍那仏（大仏）を造る契機となった逸話は名高い。古代寺院で「智識寺」と称した寺院は現在唯一。双塔伽藍（ごうとう）である。「家原邑知識経」による家原里（邑）の知識集団についても紹介。

河内六寺は孝謙天皇が天平勝宝8年（756）に礼拝した「智識・山下・大里・三宅・家原・鳥坂（とさか）等六寺」をいう。大県（おおがた）廃寺からは「大里寺」、高井田廃寺からは「鳥坂寺」と書かれた墨書き土器が出土するなど、三宅寺以外は寺址がほぼ確定している。河内六寺は知識の寺として建立されたと推測されている。

第4回「通信」234 2009年5月

日本・古代朝鮮にみる知識、知識集団の実態

メインレポート。河内・和泉・大和と古代朝鮮における知識の事例を紹介。「西琳寺文永注記（さいりんじぶんえいちゅうき）」の「二種知識」、野中寺（やちゅうじ）弥勒菩薩半跏像（はんかそう）銘文の「智識百十八人」、知識経（知識による写経）の初見である「金剛場陀羅尼経（こんごうじょうだらにきょう）奥書」、和泉監（いづみげん）大鳥郡の郡司が主導した知識経「瑜伽師地論（ゆがしじろん）跋語」、行基（ぎょうき）の大野寺土塔（ととう）、法隆寺を維持した山部連（やまべのむらじ）氏など知識集団について紹介。

古代朝鮮の知識では、高句麗の仏像銘文、統一新羅初に百済人（達率（だつそつ））という百済第二の官位をもつ）が知識により造った「碑巖寺・癸酉銘（きゆうめい）阿弥陀三尊仏碑像」など。

第5回「通信」235 2009年7月

赤石郡 — 太寺（たいでら）廃寺、高丘窯跡群

5回目からようやく播磨に入り、明石川流域の赤石郡へ。「風土記」は赤石郡を欠くが、『和名抄』では4郷。

■太寺廃寺（明石市）

赤石郡唯一の古代寺院。塔跡・塔心礎が残る。

■高丘窯跡群（明石市）

飛鳥豊浦寺（とゆらでら）や奥山廃寺の軒丸瓦、四天王寺の鷦尾（しひ）を焼成した。一部窯址が保存される。

*高丘窯の鷦尾は東播系鷦尾・沈線文鷦尾とも呼ばれ、東播磨の古代寺院で出土する。

太寺廃寺・新部大寺（しんべおおでら）廃寺・

広渡（こうど）廃寺・繁昌（はんじょう）廃寺・

石守（いしもり）廃寺

【美囊郡（みなきのこほり）】明石川中流域の美囊郡には古代寺院が知らない。縮見屯倉（しじみのみやけ）比定地であり、韓鍛首（からかぬちのびと）広富（『続日本紀』）という渡来系の富強な大領（だいりょう 郡司のトップ）がいたのに何故だろう？瓦塔は出土している。

第6回「通信」236 2009年9月

賀毛（かも）郡の古代寺院（1）「既多寺知識経」

加古川中流域の賀毛（賀茂）郡、里数は12里。特徴ある古代寺院址が10ヶ所あり、3回続けた。

まず、播磨で残る唯一の知識経（知識による写経）である、「播磨国賀茂郡既多寺（けたでら・きたでら）大智度論（だいちどろん）奥書」の紹介、賀毛郡の人名録（知識候補）を作成。知識による写経は「地域小集団」（栄原永遠男）によりなされたと分析されている。寺院の建立も同様の方法・組織でなされたのではないかと考えられる。

■殿原（とのはら）廃寺（加西市）

既多寺の有力な比定地。一部発掘調査されている。

「山田寺亞式」軒丸瓦が出土。

第7回「通信」237 2009年11月

賀毛郡の古代寺院（2）

■繁昌廃寺（加西市）

ほぼ全面発掘により薬師寺式双塔伽藍が確認された。

ジグザグ縄叩き瓦が出土。1点のみであるが、「竹状模骨丸瓦」が出土しており、注目される。繁昌廃寺の隣には式内・乎疑原（おきわら）神社が鎮座し、五尊像石仏は奈良時代前期の作とされる。

■吸谷（すいたに）廃寺（加西市）

法会（ほうえ）などで幟を立てる幢竿（どうかん）支柱址を検出。觀音堂（慈眼寺）境内に多くの礎石が残る。

■野条廃寺（加西市）

赤松啓介氏の踏査記録によれば双塔伽藍。鶴野飛行場造成で破壊され、東塔以外の遺構は未確認である。

第8回「通信」238 2010年1月

賀毛郡の古代寺院（3）

■河合廃寺（小野市）

賀毛郡最古の寺院。「山田寺亞式」軒丸瓦が出土。発掘調査により地下式塔心礎を確認。

■新部大寺（しんべおおでら）廃寺（小野市）

現在、東塔の塔心礎が残る。西塔の心礎もかつて存在しており、薬師寺式双塔伽藍が想定されている。

■広渡（こうど）廃寺（小野市）

発掘調査により薬師寺式双塔伽藍が確認された。ただ、回廊が講堂をも囲繞している。建立は長期にわたったようである。全面的に史跡公園化されている。

*新羅系文様の軒丸瓦が3種、新羅系「包み込み技法」の軒平瓦、ジグザグ縄叩き平瓦が出土している。

■喜田（きた）清水廃寺（加東市）

間弁（かんべん）上に珠点のある軒丸瓦が出土。河内六寺の鳥坂寺（柏原市）で類例があり、注目される。

■掎鹿（はしか）廃寺（加東市）

掎鹿里は東大寺大仏殿建立のための山作所と関連する。稀有な縁釉垂木先（たるきさき）瓦は平城京と直結する。

■古法華（ふるぼっけ）山石仏（加西市）

古法華山には草堂のような道場があったか。石仏のレリーフには双塔が刻されている。滝寺磨崖仏（奈良市）でも双塔のレリーフが見られる。

第9回「通信」239 2010年3月

加古川下流域の古代寺院

加古川下流東岸は、賀古（かこ）郡 4里、3ヶ寺。

西岸は、印南（いなみ）郡 4里、2ヶ寺。

■西条廃寺（加古川市／賀古郡）

発掘調査され遺構が復原整備される。近隣の行者塚古墳（前方後円墳 約100m）も史跡公園。丘陵上。

*伽藍配置は特異で、西に塔、東に西面する金堂。知識寺院の野中寺（羽曳野市）が同じ伽藍配置。

*金堂・塔は瓦積基壇。講堂も推定瓦積基壇。

■石守（いしもり）廃寺（加古川市／賀古郡）

道路新設、圃場整理による発掘調査が行われた。近所の寶塔寺境内に塔心礎が移されている。

*金堂は瓦積基壇。ジグザグ縄叩きの平瓦。創建瓦は播磨で唯一、輻線文縁（ふくせんもんえん）軒丸瓦。

*輻線文：自転車の車輪状の文様で、近江で盛行し、渡来系寺院の指標のひとつとされる。

*造寺を主導したのは「風土記」に開拓説話がある加耶系の大部造（おおとものみやつこ）が考えられる。

■野口廃寺（加古川市／賀古郡）

野口神社境内と重なる。塔・講堂・小堂宇が瓦積基壇。

*野口廃寺と賀古駅家（かこのうまや）・古大内（ふるおうち）遺跡は山陽道を挟み南北に向かい合う。

■中西廃寺（加古川市／印南郡）

觀音堂境内に塔心礎が残る。「山田寺亞式」軒丸瓦が収集されている。寺南面に伝路（でんろ）が想定される。

■山角（やまかど）廃寺（加古川市／印南郡）

小学校校庭に小ぶりの塔心礎が置かれている。

□「ジグザグ縄叩き」のネットワーク

繁昌廃寺・広渡廃寺・新部大寺廃寺では、平瓦にジグザグ縄叩きと呼ばれる特異な文様？がみられる。平瓦であるから屋根に葺くと隠れるにも関わらず、手間をかけて叩いている。中河内と共に通する製作技法である。

また、この3ヶ寺が極めて類例の少ない薬師寺式双塔伽藍であることも興味深い。播磨以外で発掘調査により薬師寺式双塔伽藍が確認されているのは、本薬師寺（藤原京）・平城薬師寺・百濟寺（枚方市）のみに過ぎない。

第10回「通信」240 2010年5月

託賀（たか）郡の古代寺院 — 加古川上流域 —

託賀（多可）郡 里数4、古代寺院址4。

■多哥寺（たかでら）廃寺（多可郡中町）

量興寺境内に巨大な塔心礎が残る。軒丸瓦に特異なパルメット（忍冬文）が見られる。河内・大和には類例がみられない。系譜は朝鮮半島であろうか。

*金剛山廃寺（たつの市揖保川町）では、文様の便化した「忍冬文装飾弁六葉蓮華文」軒丸瓦を収集。

*託賀郡には蘇我氏が設置したミヤケが想定できる。

■野村廃寺（上ノ段遺跡）（西脇市）

茜が丘集会所の東側一帯。全面調査されたが、瓦が一片も出土せず。幢竿（どうかん）支柱あり。丘陵に立地。

■八坂廃寺（西脇市八坂町）

広い土壘内に堂が単独で建つ。かつて基壇と礎石が残っていた。米軍の航空写真あり。現状は病院など。

■明楽寺廃寺（仮称）（西脇市）

六所神社境内に塔礎石を流用した長大な手水石あり。

薬師堂脇に八角形石灯籠。奈良當麻寺（たいまでら）石灯籠（重文）の中台文様に酷似する。寺院遺構は不明。

第11回「通信」241 2010年7月

神前（かむさき）郡の古代寺院

市川中流域（賀毛郡の西）。里数6、古代寺院址2。

■溝口廃寺（姫路市香寺町）

圓覚寺境内に塔心礎が2個残り、双塔伽藍とされる。

大きさがまったく異なり、双塔伽藍かどうか未確定？

*溝口廃寺から出土した奈良時代前半の瓦は、大和興

福寺・下野（しもつけ）薬師寺（栃木県）と同範（はん）で、奈良時代にあっても人脈（播磨国守・藤原武智麻呂）によるネットワークが機能していた。

*下野薬師寺は「新羅式一塔三金堂型式」との評価。

■多田廃寺（姫路市山田町）

諏訪神社境内に2個の塔心礎が残り、双塔伽藍であったとされるが、出土状況が不明。圃場整理にともなう発掘調査では寺院の遺構は検出されなかった。

*創建年代について奈良時代後半以降という説がある。

その時期の双塔伽藍は極めて少ないので、播磨で造られたことは画期的と評価できる。

*野条廃寺（加西市）も同じことが言える。

第12回「通信」242 2010年9月

飫磨（しかま）郡の古代寺院

おおよそ市川（いちかわ）下流域と夢前川（ゆめさきがわ）流域。飫磨郡16里、古代寺院址9。国府所在地。

■白国（しらくに）廃寺（姫路市）

白国地名は、「風土記」に「新良訓（しらくに）と号（なづ）くる所以は、昔、新羅の國の人来朝（まいき）ける時、此の村に宿りき。故、新羅訓と号く。山の名も同じ」と記載される。寺院遺構は不明。

■平野廃寺（姫路市）

塔心礎が姫路本徳寺本堂脇に置かれている。

■市之郷廃寺（姫路市）

JR高架工事、市街地再開発などにより発掘調査。仏堂基壇、回廊跡などを検出。蓮華文帯鷲尾が出土。小振りの塔心礎が道路端の薬師堂に残る。

■見野（みの）廃寺（姫路市）

塔心礎が姫路文学館の庭に移されている。『日本靈異記』に出てくる飫磨郡の濃於（のお）寺と考えられる。

*見野廃寺の南には、「風土記」の継潮（つぎのみなど）比定地、由緒はよくわからないが新羅神社が残る。

第13回「通信」243 2010年11月

播磨の双塔伽藍からみる「知識」のネットワーク

メインレポート。播磨賀毛郡に集中する薬師寺式双塔伽藍を取上げた。繁昌廃寺・広渡廃寺は発掘調査により薬師寺式双塔伽藍が確認され、新部大寺廃寺もかつての記録によりほぼ確定的。野条廃寺は簡単な略測図が残るのみで未確定。数少ない薬師寺式双塔伽藍がこれだけ集中するのは日本で賀毛郡のみである。

これら3ヶ寺の造寺集団は、ジグザグ縄叩き平瓦から河内とのネットワークを有していることが明らかで、河内の渡来系氏族から情報を提供してもらった可能性が高い。ただ、河内の薬師寺式双塔伽藍の実態が明確とは言い難い。天皇家は元薬師寺・平城薬師寺を建立しているが技術者を派遣してくれたとは考えにくい。あるいは、新羅との直接交流があったものか？

第14回「通信」244 2011年1月

飫磨郡の古代寺院（続）

■辻井廃寺（姫路市）

道路新設工事等により大規模な発掘調査が行われた。田んぼの中に巨大な塔心礎が露出している。二時期の遺構が重なる。僧堂も確認。蓮華文帯鷲尾が出土。

■今宿（いまじゅく）遺跡〔今宿廃寺〕（姫路市）

蓮華文帯鷲尾が出土。整理箱約1000箱もの龐大な瓦が出土しており、近隣に未知の寺院が想定される。

■蒲田山本遺跡（姫路市）

新羅系文様の博（せん）、瓦などが収集された。

■草上駅家（くさかみのうまや）〔今宿丁田遺跡〕（姫路市）

実態不明。駅家と辻井廃寺は近接する。

第15回「通信」246 2011年5月

揖保（いひほ）郡・宍粟（しさは）郡の古代寺院

揖保郡18里、11ヶ寺。宍粟（宍粟）郡は7里。
＊播磨で唯一の古代山城・城山城（きのやまのき）も造られている。城門の門礎（唐居敷 からいじき）が残る。

■香山（こうやま）廃寺（たつの市新宮町）

薬師堂と周辺の公園一帯が廃寺跡。今里幾次氏が香山廃寺の報告書で、播磨の額部施文軒平瓦を集成。

□播磨の額部施文軒平瓦

吸谷廃寺（吸谷瓦窯）・繁昌廃寺・殿原廃寺
中西廃寺・溝口廃寺・下太田廃寺・中井廃寺
奥村廃寺・越部廃寺・香山廃寺・千本屋廃寺
中垣内廃寺・早瀬廃寺・新宿廃寺

■越部（こしへ）廃寺（たつの市新宮町）

奥村廃寺系列の複弁六葉蓮華文軒丸瓦が出土する。
＊越部里（旧新宮町）には4ヶ寺が集中する。越部廃寺・栗栖廃寺は美作道沿いに位置する。

越部駅家も配置されていた。越部ミヤケ比定地。

■栗栖（くりす）廃寺（たつの市新宮町）

奥村廃寺系列の複弁六葉蓮華文軒丸瓦が出土する。

■千本屋（せんぼんや）廃寺（宍粟市山崎町）

宍粟郡で唯一の寺院。式内貴船神社の北側、観音堂が建つ土壇が塔跡と推定。額部施文軒平瓦が出土。

第16回「通信」247 2011年7月

西播磨の蓮華文帯鷲尾（れんげもんたいしひ）

播磨の高級ブランド・蓮華文帯鷲尾、漢人（あやひと）・漢部（あやべ）集団と峰相山（みねあいさん）古窯跡群。

□蓮華文帯鷲尾のネットワーク

揖保郡 中井廃寺・下太田廃寺
中垣内（なかがい）廃寺
飴磨郡 辻井廃寺・市之郷廃寺・今宿遺跡
美 作 大海（だいかい）廃寺
伯 耆 斎尾（さいのお）廃寺
攝 津 四天王寺・細工谷遺跡（百済尼寺）
山 背 大宅（おおやけ）廃寺（京都市山科区）

＊摂津は分かるが、山背の大宅廃寺とはどんな因縁が？

＊峰相山には鶏足寺という寺院が建立されており新羅王子が創建したという伝承を持つ〔峯相記〕。7世紀末の軒丸瓦も収集されている。新羅（鶏林）と鶏は因縁がある。

第17回「通信」248 2011年10月

『出雲国風土記』の寺院を訪ねて

一斐伊川（ひいがわ）流域と出雲西部地域一

■木次（きすき）廃寺（雲南市木次町）

木次駅ホームの隣に巨大な塔心礎が置かれている。

■天寺平（てんじひら）廃寺（斐川町）

外区に唐草紋を配した新羅系軒丸瓦

■西西郷（さいさいごう）廃寺（旧平田市）

■神門寺（かんどうじ）境内廃寺（出雲市）

庭園内に塔心礎が残る。中房（ちゅうぼう）のまわりに珠文をめぐらす、新羅に類例がある軒丸瓦が出土する。

■長者原（ちょうじゃばる）廃寺

ここも新羅風の軒丸・軒平瓦が出土する。

第18回「通信」249 2011年11月

『出雲国風土記』の寺院を訪ねて（続）

■四王寺（しわじ）跡（意宇（おう）郡山代郷南新造院）

高句麗系の四葉文軒丸瓦が出土。太寺廃寺（明石市）の四葉文軒丸瓦も一見するとよく似ている。

■来美（くるみ）廃寺（意宇郡山代郷北新造院）

出雲唯一の双塔伽藍。奥村廃寺と同じく金堂両脇に双塔を配する様式。当初から双塔が計画されていたかは疑問で、造られるのに100年要した。史跡公園。

■出雲国分寺址（松江市）

軒丸・軒平瓦共に華麗な新羅系文様で知られる。広い史跡公園。国分尼寺周辺で墨書き土器「秦館」。

■教昊寺（きょうこうじ）址（安来市）

塔心礎は神祇神社の社号台石に使われている。

□雲樹寺（安来市）

新羅・宣徳王代（780～784年）の新羅鐘を展示。

＊木次・安来・三次（みすき）等は「スキ（村）」地名。

第19回「通信」250 2012年1月

若狭の古代寺院を訪ねて－興道寺廃寺シンポジウム－

シンポに併せ若狭へ。若狭国は当初2郡で成立し、平安時代初に3郡に。栄原永遠男氏の「知識の寺（知識寺）」についての講演あり。

■若狭神宮寺（神願寺）（小浜市）

お水取りの神事はこの寺の井戸（闇伽井）から始る。お寺であるが、住職も二礼二拍手で本尊を拝む。

■若狭国分寺跡（小浜市）

金堂の前に大きな円墳が残る。類例ないがなんで？

■太興寺廃寺（小浜市）

日枝神社境内に塔心礎が残る。

■興道寺廃寺（三方郡美浜町）

第20回「通信」251 2012年3月

豊前（ぶぜん）の古代寺院・関連遺跡を訪ねて

古代山城研究会の行橋例会（福岡県）とセットで、御所ヶ谷（ごしがだに）山城と周防灘沿岸の遺跡を周遊。

豊前国は8郡、古代寺院は14ヶ所。

■船迫（ふなさこ）窯跡公園（築上郡）

広い史跡公園に展示館・窯址・工房などが点在する。

■上坂（かみさか）廃寺（豊前市）

■木山（きやま）廃寺（仲津郡）

■菩提（ぼだい）廃寺（京都郡）

■椿市（つばきいち）廃寺（行橋市）

四天王寺式伽藍配置。高句麗系統と百済系瓦が出土。

＊正倉院に残る大宝二年（702）の「豊前国戸籍断簡（だんかん）」には多数の渡来系住民（秦氏）が記載されることで知られる。断片的な戸籍であるが、記載された611名中の568人、93%が渡来系になる。

第21回「通信」252 2012年5月

むくげの会全州合宿－ソウル・全州・扶餘・公州－

「東学農民革命」関連遺跡や博物館・資料館を見るのが目的の合宿であったが、合宿前後に古代寺院址など。

- 扶餘定林寺址・資料館
- 扶餘博物館「癸酉銘阿弥陀三尊仏碑像」
銘文に「知識」が刻字される。
- 扶蘇山廃寺（西腹寺） 扶蘇山城（王城）内に立地
・ソウル北漢山の「新羅眞興王巡狩碑」を見に行く。

第22回「通信」253 2012年7月

- 伯耆・因幡の古代寺院 一 山陰道の古代寺院 一**
伯耆国は6郡、12ヶ所、因幡国は7郡、10ヶ所。
- 斎尾（さいのお）廃寺（東伯郡琴浦町）
峰相山窯跡（姫路市）で焼かれた蓮華文帯鷲尾が出土。
琴浦町歴史民俗資料館で展示されている。
- 法華寺痕遺跡（伯耆国分尼寺） ■ 伯耆国分寺（倉吉市）
- 大御堂（おおみどう）廃寺（倉吉市）
西に南北棟の金堂、東に塔を配する觀音寺式伽藍配置。
現状はグランド。塔心礎が近所の小学校校庭にある。
- 大原廃寺（倉吉市）
志羅谷（しらだに）に位置し、新羅系軒丸瓦・軒平瓦が出土しており、新羅っぽい雰囲気。
- 土師百井（はじもい）廃寺（八頭町）
- 等ヶ坪（とうがつぼ）廃寺（鳥取市）
- 岡益（おかます）廃寺（鳥取市）
高句麗系の文様で知られる岡益の石堂（いしんどう）は石塔と推定されている。どんな寺だったのだろう？
- * 等ヶ坪廃寺と岡益廃寺からは、奥村廃寺（揖保郡）と同範の「珠文帯複弁八葉蓮華文軒丸瓦」が出土する。
周縁（外縁）に珠文がめぐる新羅系文様である。
- 岩井廃寺（岩美郡岩美町）
国道9号線（推定山陰道）沿いに立地し、巨大な塔心礎が残る。東に峠を越えると但馬になる。
- 栃本（とちもと）廃寺（鳥取市）
金堂の南面と東面に塔を配した異例の双塔伽藍。
伯耆上淀廃寺は金堂東側に双塔が南北に配される。
* 日本海側の双塔伽藍は3ヶ寺とも異例である。

第23回「通信」254 2012年9月

- 紀ノ川流域の古代寺院 一 南海道の古代寺院 一**
- 西国分（にしこくぶ）廃寺（岩出市／旧那賀郡）
- 最上（もがみ）廃寺（紀の川市／旧那賀郡）
- 北山廃寺（紀の川市／旧那賀郡）
- 山口廃寺（和歌山市／旧名草郡）
- 上野廃寺（和歌山市／旧名草郡）
金堂南面に双塔を配するが、講堂が西塔の西にある。
西塔は瓦積基壇、東塔は埠積基壇。百濟系田辺史（たなべのふひと）が主導した田辺廃寺（柏原市）の双塔も西塔・金堂は瓦積基壇、東塔は埠積（せんづみ）基壇である。
- * 周縁（外縁）に珠文がめぐる新羅系軒丸瓦が知られる。
同範の軒丸瓦が片岡王寺（奈良県王寺町）で採集されている。さらに、軒平瓦の獣面と唐草文を組み合わせた文様は益山・帝釋寺例（統一新羅時代）と酷似する。
- * 上野廃寺の造寺集団は、『盡異記』によれば、任那系の吉士集団ではないかと、考えられる。

第24回「通信」255 2012年11月

揖保郡・讚容郡の古代寺院 一 美作道の古代寺院

- 奥村廃寺（たつの市神岡町／揖保郡上岡里）
南面を美作道が通過する。金堂の左右（東西）に塔を配する双塔伽藍。類例は全国に4例。

■ 新治（にいばり）廃寺 常陸

■ 来美（くるみ）廃寺 出雲

■ 三ツ塚廃寺 丹波

双塔にこだわりがあったか？ 朝鮮半島に類例はない。
塔心礎が龍野歴史文化資料館に移されている。

□ 奥村廃寺軒丸瓦のネットワーク

・複弁六葉蓮華文軒丸瓦

奥村廃寺 → 栗栖（くりす）廃寺 → 越部廃寺 →
長尾廃寺 → 池の内遺跡（窯址 美作）

・複弁八葉蓮華文軒丸瓦

奥村廃寺 → 等ヶ坪廃寺・岡益廃寺

* 美作道は六葉（弁）、因幡は八葉と使い分けられている。

* 軒平瓦に極めて稀な手描きパルメット文がみられる。

* 奥村廃寺の造寺集団は美作道の開設・管理、さらに播磨国分寺の創建にも関与した可能性が考えられる。

■ 新宿廃寺（旧佐用郡三日月町／中川（なかつがわの）里）
寺の実態不明。「風土記」によれば、河内国免寸（とのき）の村の人が来ており、和泉との交流を裏付ける。

■ 長尾廃寺（佐用町）

奥村廃寺系列の複弁六葉蓮華文軒丸瓦が出土。塔心礎が残る。礎石の一部は佐用高校の校庭にもある。隣接して南北に延びる推定因幡道の痕跡が確認された。

■ 早瀬廃寺（上月町）

早瀬公民館裏に塔心礎が残る。動いていない可能性。

瓦窯址（5基）が調査された。頸部施文軒平瓦。

第25回「通信」256 2013年1月

美作道沿いの古代寺院（続）

美作では英田（あいた）郡に古代寺院が5ヶ所集中する。
鉄の生産と関連するのではないかと考えられている。

- 五反（ごたん）廃寺（旧真庭郡久世町／大庭郡大庭郷）
特異な高句麗・新羅系の文様をもつ軒丸瓦が出土する。
白猪屯倉（しらいのみやけ）の比定地でもある。
- 久米廃寺（旧久米郡久米町）
- 美作国分寺址（津山市／勝田郡）
- 楢原（ならばら）廃寺（旧英田郡美作町／英多郡）
- 江見（えみ）廃寺（旧英田郡作東町／英多郡）
- 大海（だいかい）廃寺（旧英田郡美作町／英多郡）
蓮華文帯鷲尾が出土した。塔心礎が祠の前に残る。

第26回「通信」257 2013年3月

加古川流域と河内 一 ジグザグ縄叩きは語る 一

広渡廃寺・新部大寺廃寺・繁昌廃寺・石守廃寺と河内の東條尾平（ひがしんじょうおひら）廃寺？を取上げた。

■ 東條尾平廃寺址（柏原市）

JR大和路線・河内堅上駅で下り、大和川を渡った高台の鉄工団地内。大和川左岸。寺の遺構は未確認。

*奈良街道(国道25号線)を西に1.5kmばかり歩けば、大規模な河内国分寺塔跡が復元整備されている。

第27回「通信」258 2013年5月

「山田寺亞式」軒丸瓦と山背・丹波・但馬・加古川流域

■山田寺(桜井市)

蘇我倉山田(そのくらやまだ)石川麻呂が舒明13年(641)に建立を開始し、7世紀後半に完成した寺院。発掘調査により全容が明らかになった。興福寺に残る仏頭が有名。史跡公園に整備されている。

山田寺式軒丸瓦の特徴を端折って言えば、単弁の花弁に子葉をもち、周縁(外縁)に三重の圈線がめぐる。周縁の圈線に代わり抽象的な図形がめぐるものがあり「山田寺亞式」軒丸瓦と呼ばれる。類例が限られており、その特徴から系譜を追うことができる。秦氏の本拠の山背と山陰道沿い、加古川流域に分布する。

■北白川廃寺(京都市左京区北白川)

「周縁に珠文と升形の文様を交互に配する」。この瓦は塔基壇(瓦積基壇)の方のみ出土する。80m離れる金堂も瓦積基壇。現地は住宅街、地表に痕跡なし。

この特異な瓦の生産地は、深泥ヶ池(みどろがいけ)の北西にある岩倉盆地のケシ山窯跡と御用谷(ごよんだに)窯跡であり、これらの窯跡は幡枝(はたえだ)元稻荷窯跡を起点に始まっている。北野廃寺(葛野秦寺)の創建瓦もここで焼かれており、秦氏の勢力圏である。

「山田寺亞式」軒丸瓦は秦氏が関わっている。

■北野廃寺(京都市北区北野上白梅町)

「周縁には珠点と線を交互に配する一点鎖線状の文様」になっている。地表に遺跡の痕跡なし。

■和久寺(わくでら)跡(福知山市和久寺/丹波天田郡)

鹿島神社周辺。「周縁には、珠点と珠点の間に4本の縦棒が見られる」。顎部施文軒平瓦も出土する。

第28回「通信」259 2013年7月

「山田寺亞式」軒丸瓦と顎部(かくぶ)施文軒平瓦

*顎部施文とは瓦の「顎」の部分に文様があるもので「山田寺亞式」軒丸瓦と同様に類例が少ない。

瓦の顎はどこ? 軒瓦の下端部で、軒平瓦の場合、顎の形態も広いものから狭いものまである。

□但馬の「山田寺亞式」軒丸瓦

■立脇(たちわき)廃寺・釣坂遺跡(朝来市立脇)

塔心礎が保存される。*顎部施文軒平瓦も出土する

■三宅廃寺(豊岡市三宅/但馬国出石郡)

下水道工事中に「瓦積基壇」を検出した。建物は特定できず。近接する袴狭(はかざ)遺跡では「秦部」を記した木簡(もっかん)、墨書き器が多数出土した。

■殿岡廃寺(旧美方郡村岡町)

寺の遺構は不明。*顎部施文軒平瓦も出土する。

「外縁に三重の圈線を作り、その上に3個一対の珠文を八組配置する」。北白川廃寺出土例に近いとされる。

□播磨の「山田寺亞式」軒丸瓦

■河合廃寺(小野市) 山田寺式軒丸瓦の範疇に入る

軒丸瓦も出土する。播磨ではまず河合廃寺で「山田寺亞式」軒丸瓦が使われた可能性が高い。

■中西廃寺(小野市) 顎部施文軒平瓦も収拾

■殿原廃寺(加西市) 顎部施文軒平瓦も出土

□山背・丹波・但馬の顎部施文軒平瓦

■広隆寺(京都市右京区太秦)

現在の広隆寺境内では、寺院遺構は確認されていない。

■樺原(かたぎはら)廃寺(京都市西京区樺原)

塔は八角で、瓦積基壇。史跡公園に整備されている。

■和久寺跡(福知山市和久寺)

*「山田寺亞式」軒丸瓦は現在まで類例は9例であるが、そのうち5例は顎部施文軒平瓦とセットになる。

第29回「通信」262 2014年1月

瓦積(かわらづみ)基壇をもつ古代寺院—播磨編—

重量建築物である寺の建物を支えるには基壇が必要である。あの嫋やかな薬師寺西塔のウェイトは483トンもあるヘビーリー級。基壇は風雨による崩壊防止や装飾のため、石や瓦、埴(せん)などで化粧される。瓦積基壇は百濟で多く用いられ、百濟と関係あると考えられている。

□瓦積基壇の類例

近江 穴太(あのう)廃寺再建金堂、崇福寺跡

南滋賀廃寺(錦部寺?)、宝光寺跡、宮井廃寺

山背 北白川廃寺、樺原廃寺、

大鳳寺(だいほうじ)跡(宇治市)

大和 山村廃寺(奈良市)

河内 新堂廃寺(富田林市)、田辺廃寺(柏原市)

紀伊 上野廃寺(和歌山市)

摂津 四天王寺、猪名寺廃寺(尼崎市)、伊丹廃寺

播磨 繁昌廃寺、西条廃寺、石守廃寺、野口廃寺、

播磨国分寺(姫路市)

播磨では、加古川流域に4ヶ寺が集中する。薬師寺式双塔伽藍、「山田寺亞式」軒丸瓦、ジグザグ縄叩き技法も加古川流域に集中しており、渡来色濃い地域である。

*阪神間では、伊丹廃寺(伊丹市)で金堂・塔跡の瓦積基壇が復元されている。金堂の瓦積基壇は石を混用。

第30回「通信」263 2014年3月

播磨の駅路(えきろ)・駅家(うまや)と古代寺院

古代駅路は基本的に直線道である。明石川西岸から加古川東岸までは、ほぼ20kmにも及ぶ直線道の痕跡が部分的に残る稀な地域になる。条里地割の基軸線にもなる。

播磨には大同2年(807)の時点で、山陽道駅家が9ヶ所、美作道駅家2ヶ所が配置されていた。古代寺院は駅路・伝路(でんろ)、駅家周辺に建立されることが多い。伝路は郡家と郡家を結ぶ、在来の道。

□山陽道の駅家

明石 確定地なし 明石城の東方か? 遺構不明

邑美 長坂寺遺跡 明石市魚住町 *発掘調査

賀古 古大内遺跡 加古川市野口町 *発掘調査

佐突 北宿遺跡 姫路市別所町 遺構不明

草上 今宿丁田遺跡 姫路市東今宿 遺構不明

大市 太市中遺跡	姫路市太市中	*発掘調査
布勢 小犬丸遺跡	たつの市揖西町	*発掘調査
高田 辻ヶ内遺跡	赤穂郡上郡町佐用谷?	
野磨 落地遺跡	赤穂郡上郡町	*国史跡

***野磨（やま）駅家**は、駅家址では日本で唯一の国史跡。遺構が良好に残る。布勢（ふせ）駅家は出土木簡により日本で初めて駅家であることが確認された。野磨駅家・賀古駅家址では格式高い門礎石（唐居敷 からいじき）が残る。明石駅家の「駅楼」は菅原道真の詩に登場する。

第31回「通信」264 2014年5月

播磨の駅路・駅家と古代寺院（続）

- 辻井廃寺（姫路市／飫磨郡巨智（こち）里）
- 西脇廃寺（姫路市／揖保郡邑智里）
小振りの塔心礎が田んぼの傍らに残る。遺構は不明。
- 下太田廃寺（姫路市勝原区／揖保郡大田里）
発掘調査により四天王寺式伽藍配置を確認。塔跡に礎石が動かずに残る。蓮華文帯鷲尾が出土。ここでは二羽のカラスにひとつく裏われ、ヒッチコック体験をした。
- 中井廃寺（たつの市／揖保郡少宅（おやけ）里）
新羅系鬼面文軒丸瓦が出土しており、播磨で唯一の例。蓮華文帯鷲尾も出土。個人宅に塔心礎・石製露盤（ろばん）などが残る。周辺は漢人（あやひと）の集住地域。

第32回「通信」265 2014年7月

近江滋賀郡の古代寺院 一 湖西

- 衣川（きぬがわ）廃寺（大津市堅田）
- 真野（まの）廃寺（大津市真野）
- 穴太（あのう）廃寺（大津市穴太）
近江で最も知られる古代寺院であろうか。現状は高架道路の下。二時期の遺構が残り、再建期の金堂・塔基壇は瓦積基壇。新羅系の有稜素弁軒丸瓦、輻線文縁軒丸瓦など、渡来系と考えられている軒瓦が出土する。
- 南滋賀廃寺（大津市南滋賀）
史跡公園になっている。金堂・西金堂・塔基壇が瓦積基壇。方形軒丸瓦（文様は一見サソリ風でサソリ文と呼ばれる）は飛び切り珍しい四角形の軒四角瓦？ 輻線文縁（ふくせんもんえん）軒丸瓦は補修用とされる。
- *寺域の東で「錦寺」とヘラ描きされた緑釉陶器が出土し、『続日本紀』に記載される「錦部寺」ではないか、との推測を裏付けた。錦部寺は百濟系の錦部村主（にしこりのすぐり）が建立を主導したと考えられている。

■崇福寺（すうふくじ）跡（大津市滋賀里町）

京都北白川へ通する山中越えルートに位置する。北尾根の沙弥堂は平瓦を摘んだ瓦積基壇、その東方基壇は類例の少ない平瓦を合掌積みした瓦積基壇。

*扶餘・軍守里（ぐんしゅり）廃寺（宮南池の西）金堂基壇は平瓦を合掌積みする。合掌積み基壇は装飾性が高い。

第33回「通信」266 2014年9月

近江の古代寺院（続） 一 湖南・湖東 一

- 手原（てはら）遺跡（栗東市／旧栗太（くりた）郡）
輻線文縁軒丸瓦が出土。寺院遺構は未確認。

周辺に2ヶ所、寺院址と推測される遺跡が存在。

■宝光寺跡（草津市北大萱町）

推定講堂基壇は瓦積基壇。出土瓦は飛び切り特異で、輻線文縁・方形瓦・四葉文など。

*宝光寺跡から北方の湖岸一帯（草津市北西部）には、狭い地域に7ヶ所もの寺址・推定地が密集する。

■芦浦觀音寺廃寺（草津市芦浦町）

芦浦觀音寺は土壘と濠をめぐらした城館のような寺院。

■花摘寺（はなつみでら）廃寺（草津市下物町）

下物（おろしも）天満宮境内には多くの礎石が残る。

■觀音堂廃寺（草津市下寺町）

輻線文縁軒丸瓦が出土。天神社に基壇跡が残る。

■雪野寺（ゆきのでら）跡（蒲生郡竜王町）

龍王寺境内に塔跡が残る。多くの塑像片が出土した。湖東式軒丸瓦、指圧圧痕重弧文軒平瓦が出土。

■宮井廃寺（東近江市／旧蒲生郡蒲生生町）

天神社と周辺が寺域。金堂は瓦積基壇。塔心礎が残る。

*湖東式軒丸瓦 + 指圧圧痕重弧文軒平瓦

依知（えち）秦氏の本拠である旧愛知（えち）郡を中心に湖北・越前、さらに美濃・尾張、信濃まで分布する。

中房に大きな蓮子を一つ置き、その周辺に多数の蓮子を巡らせ、外区内縁にも珠文を廻らす極めて特徴ある文様で、**公州大通寺址**や**南穴寺**址出土瓦と類似しており、関連するのではないか、と考えられている。

第34回「通信」267 2014年11月

播磨の新羅系及び傍流の軒丸瓦

メインレポート。森郁夫氏、金誠龜氏により新羅系とされた広渡廃寺の軒丸瓦を始めとし、新羅系と考えられる軒丸瓦を集成。さらに、朝鮮に系譜を求められるのではないかと思われる軒丸瓦も合わせて集成した。

これをもとに、『東アジア瓦研究』第4号（東アジア瓦研究会 2015）に書き加えた。

第35回「通信」268 2015年1月

播磨の法隆寺式軒平瓦について

山崎信二氏の論文紹介（「七世紀後半の瓦からみた朝鮮三国と日本との関係」）。「法隆寺式軒平瓦は百濟人との関係が強い」と指摘されている。

新部大寺廃寺 賀毛郡／小野市

下太田廃寺 捐保郡／姫路市

繁昌廃寺・天神山窯跡 賀毛郡／加西市

吸谷廃寺・吸谷窯跡 賀毛郡／加西市

芦屋廃寺（芦屋市）、細工谷遺跡（百濟尼寺）も紹介。

第36回「通信」269 2015年3月

広渡廃寺軒平瓦の新羅系「包み込み技法」

「文様のある木製范を水平に置き、瓦当部に粘土を詰め込み、平瓦を垂直に立てて接合し、瓦当と平瓦に接合粘土を巻きつけるようにして作り上げる」特徴をもつ。

広渡廃寺では4種類の軒平瓦が出土し、創建時は通常の技法による重弧文（じゅうこもん）軒平瓦であるが、以後、包み込み技法の軒平瓦が使用されている。

* 広渡廃寺は、双塔伽藍、古新羅系文様の軒丸瓦、新羅系技法の軒平瓦、平瓦のジグザグ縄叩き技法など、極めて渡来色、それも新羅色が濃厚であるが、「山田寺亞式」軒丸瓦は使われていない。

■吸谷廃寺（賀毛郡／加西市）

新羅系包み込み技法がみられるが、年代は9世紀後半～10世紀前半とされる。

□包み込み技法による軒平瓦の類例

■山村廃寺（奈良市）

法隆寺式忍冬唐草軒平瓦 * 瓦積基壇
* 風土記によれば、飫磨郡巨智里に、「韓人山村等が上祖、柞（なら）の巨智の賀那」が移住している。

- 元興寺（奈良市） ■額安寺（大和郡山市）
- 信太寺（和泉市） ■細工谷遺跡（百濟尼寺）
- 斎尾（さいのお）廃寺（鳥取県東伯郡琴浦町）
- 上野廃寺（和歌山市）

双塔伽藍、瓦積・博積基壇、新羅系軒丸瓦。

* 包み込み技法により作られた軒平瓦は、獣面と唐草を組み合わせた文様で、益山・帝釋寺例と酷似する。

第37回「通信」271 2015年7月

飛鳥寺禅院の軒丸瓦と播磨

飛鳥寺禅院は、南朝系百済人である船史（ふねのふひと）出自の道昭（どうしょう）が、天智元年（662）に飛鳥寺の東南隅に建立した仏堂。禅院創建時に使用された軒丸瓦は5型式。当時の主流をなす軒丸瓦とは文様も製作技法も異なる。高句麗・新羅色が濃厚なのである。

「いずれも、幅広く高い外縁を有し、4型式に竹状模骨瓦が取り付く（1型式は不明）。花谷氏は、この軒丸瓦に類似するものとして播磨の以下の例を挙げられた。

- 辻井廃寺（飫磨郡／姫路市）
- 野口廃寺（賀古郡／加古川市）
- * 中房を凸線で区画する瓦（飛鳥寺禅院XⅢ型式）も出土する。高句麗の軒丸瓦にみられる。
- 多哥寺廃寺（託賀郡／多可町）
- * 中房を十字に区切り、蓮弁はパルメットという他に類例のない軒丸瓦も出土する（E型式）。

上記以外、以下の廃寺・窯跡でみられる。

- 市之郷廃寺（飫磨郡／姫路市）
- 赤坂窯跡（峰相山窯跡群／姫路市）
- * 播磨と飛鳥とをつなぐネットワークが存在した。
- * 飫磨郡濃於寺で夏安居（げあんご）した僧は飛鳥寺の僧である。道昭も播磨を周遊した可能性が考えられる。

第38回「通信」272 2015年9月

氏寺（氏の寺）と知識寺（知識の寺）

「氏寺（氏の寺）」について栄原永遠男氏の論考を紹介。7～8世紀段階には「氏寺」という用語は史料に存在しない。「氏寺（氏の寺）」という通念の存在は不明だが、「知識寺」は天皇が訪れるほど一般的に広く知られていた。

■西琳寺（さいりんじ）（羽曳野市）

東西の丹比道（竹内街道）と南北の東高野街道が交差

する位置に立地する。日本最大級の塔心礎が残る。

* 『西琳寺文永注記（ぶんえいちゅうき）』（西琳寺の資料集）には、渡来系の文首（ふみのおびと）と土師氏が「二種智識」により、造寺・造仏にあたったことが記される。

第39回「通信」273 2015年11月

伯耆四天寺と山陰道の古代寺院

大原神社（倉吉市）の祭礼には、小振りの石製幢竿（どうかん）支柱に幟（のぼり）が立てられる。祭礼の日に合わせ出かけたが、木柱が痛み危険だと鉄棒になっていた。

□播磨の幢竿支柱遺構の出土寺院址

- 奥村廃寺（たつの市） 吸谷廃寺（加西市）
- 野村廃寺（西脇市）

■大原廃寺（倉吉市）

* 単弁六弁の軒丸瓦（Ⅲ類）の外縁に「唐草紋」がめぐる。軒平瓦（Ⅱ類）も新羅系文様である。

* 額部施文軒平瓦も出土している。

■四王寺（しおうじ）址・四王寺山（倉吉市）

貞觀九年（667）、伯耆・出雲・石見・隱岐・長門の五国に対し、「賊境（新羅）を望む高地に道場を設置し、四天王を祀れ」という指示が出た。市王寺山（171.6m）山頂は絶景であったが、新羅は遠望かなわず。

■村岡民俗資料館（兵庫県香美町村岡）

殿岡廃寺出土の「山田寺亞式」軒丸瓦が展示される。

■和久寺廃寺（福知山市和久寺）

国道9号線を走り、寺域の鹿島神社と周辺を眺めた。『広隆寺末寺并別院記』に記される「丹波江林寺」と推定される。広隆寺はいうまでもなく秦氏主導の寺院。

第40回「通信」274 2016年1月

和泉の古代寺院 — 秦廃寺（和泉秦寺）—

■秦廃寺（貝塚市半田（はんだ）町／和泉郡）

『広隆寺末寺并別院記』に記される「和泉秦寺」と考えられている。いわゆる高句麗系とされる「豊浦寺（とゆらじ）式軒丸瓦」が出土する。さらに、外縁に唐草紋がめぐる新羅系の池田寺Ⅱ式軒丸瓦も出土する。

おわりに

「播磨の古代寺院」と銘打っているが播磨以外を舞台にしていることが多い。古代寺院の建立は狭い地域のみでは完結せず、広くネットワークが錯綜して広がっている。

古代寺院と渡来系氏族・集団が深く関わっていることはすでに多くの指摘があり、播磨においても同様の情況だったと考えるが、「知識」を形成したであろう渡来系氏族・集団や在地の集団・氏族までは紙面の制約もあり、十分に紹介できなかった。

いっぱい詰め込んだので、図版がなく、本文の字も小さく、内容もさることながらさらに読みづらくなり、ご容赦ください。

引用・参考文献は多数になり略しました。